

第247回

荒川の 人

紙芝居の街、荒川に生まれ育った
二代目紙芝居師、ただいま熱演中!

東京都公認ヘブンアーティスト/紙芝居師

三橋 とらさん

【プロフィール】荒川区出身。1983年、劇団員の両親の元に生まれ、幼いころから演劇に明け暮れる。高校卒業後、劇団に入団。ワタナベエンターテインメントカレッジ卒業後、実演販売業を経て、上野動物園案内係を務める。園内での紙芝居公演をきっかけに、2011年、母の跡を継いで二代目紙芝居師となる。東京都の公認ライセンス「ヘブンアーティスト」取得。ホームページ <http://kamishibai-tora.com/> ブログ <http://ameblo.jp/tora3843/>



紙芝居発祥の地といわれる、荒川。かつて区内には多くの紙芝居師が居住し、大いに賑わった紙芝居も、テレビが普及し、子どもたちが家の中から出なくなると、次第に姿を消していきました。荒川に生まれ育った三橋とらさんは、母娘二代目となる紙芝居師。演劇少女時代から多くの出会いを経て、荒川を拠点に紙芝居師として活躍中です。今回、あふれんばかりのパワーに身振り手振りを交えて、ふるさと荒川と紙芝居について語ってくれました。

母の傍らで紙芝居を 聞いて育ち、演劇漬けに

「生まれも育ちも荒川。祖父も父も荒川出身です。子どもの頃は区内で何度も引越してきて、幼稚園は三河島で小学校は旧・一峡（第一峡田小学校）、一峡に通っている途中で統合になって峡田小学校、中学は四中（第四中学校）です。両親が劇団員だったこともあり、子どもの頃から演劇が好きで、中学校では先生にかけあってボランティア部を演劇部にしてもらったり、高校の文化祭ではクラス全員が歌って踊る舞台の脚本を書いてサンパール荒川の大ホールで公演したのも良い思い出です」
とら、という名前は劇団員時代からの芸名で、本名は三橋優子さん。優子さんの母、令子さんは、劇団員から紙芝居師となり、仕事と子育てをしながら、らくだ公園（荒川五丁目公園）や荒川三丁目公園で週1回、地元の子どものために手作りの紙芝居を見せていたそうです。



紙芝居を手作りする三橋とらさん(右)と母・令子さん

当時小学生だった長女の優子さんと一緒に紙芝居を作ったこともあり、実物「はる休みのおもいで」を見せていただくと、母娘で書いた絵に、幼い優子さんの文字で物語が書かれていました。

演劇少女の優子さんは、高校を卒業して当然のごとく劇団に入り、荒川を離れます。千葉、大阪、沖縄など、各地を転々として、ここから紙芝居師になるまで、ちょっとだけ回り道をするようになります。

上野動物園での初演と すべてを変えた東日本大震災

「芝居だけでは食べていけないので、台所用品や家電などを売る実演販売士になりました。演劇をやっていたから声も大きくなって向いていたし、子どもの頃、秋葉原デパートの実演販売をワクワクして見た思い出も後押しして。その時に紙芝居を作って実演したら大受けしました。でも受けと売上げは違うことに悩み始めた頃、ちょうど上野動物園で受付・案内係の募集があり、運良く採用されたので転職を決めました。もともと動物が大好きだったので、得意の紙芝居で動物の紙芝居をしたい、とお願いしたら、カバの来日100周年をテーマに紙芝居を作って演じる許可を園長からいただけました。じっくり調べ、クイズを交えて上野のカバの歴史をつづった紙芝居を作り、園内カバ舎の前で語ったところ大好評!新聞にも載って、追加公演をしようということになったのですが…」

初演の16日後、3.11東日本大震災が発生。動物園は休園し、長寿のカバが震災の影響で死亡。入園できなくてがっかりする親子を見て、元気づけようと上野の公園で紙芝居をしようと思ったら、ライセンスがないとダメと断られます。その悔しさをバネに、上野恩賜公園、代々木公園などの指定場所で大道芸が許可される「ヘブンアーティスト」を取得します。動物園での紙芝居デビューに使ったのは、母・令子さんから借り出した道具一式。時を前後して、紙芝居について勉強したくて探した文庫本「紙芝居昭和史」（加太こうじ著）、偶然手に取った名

作絵本「紙芝居屋さん」（アレン・セイ作）。さまざまなことが道しるべとなって、紙芝居と自分、荒川と自分、母と自分を見つめ直すようになり、荒川で紙芝居を本格的にやろうという決意が定まっていたそうです。

この街に紙芝居あり 文化を受け継いでいく決意

「紙芝居はやり続けたいと終わってしまう文化、でもやり続けたら、そこから生まれるものがある、と気づいたんです。紙芝居は自分で手作りして演じるのも自分ひとり。大変だけど自由さがあります。その場でお客さんの反応も聞けるし、アドリブで返したり、セリフを変えちゃうことだってできる。話も語りも作り次第で、何だってできる。私に合っているし、これをやり続けるって格好良くなって改めて思えたんです。今一番やってみたいのは、荒川の商店街や歴史・文化を紙芝居にすること。みんなで話を聞きにいて、紙芝居を作って演じる。最近では、全国でも紙芝居の人气が盛り返ってきていて、紙芝居を使った街おこしも増えています。静岡県沼津市では2年に一度全国から紙芝居師が集うお祭りがありますが、こういうのを、荒川でできたらいいなって」

とらさんを代表に、紙芝居を作って演じる「東京したまち紙芝居の会」も発足。紙芝居に興味があってやってみたい人なら誰でも参加できます。紙芝居を使ったワークショップ、イベントなど、声がかかれば国内・海外どこへでも飛んでいくとのこと。荒川の子どものために、ここに紙芝居ありと胸はってもらえるようにがんばっていきたくてと語るとらさん。首から下げたお母さん譲りの拍子木をカンカンと叩いて、とらさんの元気のいい声が聞こえてきたら、さあ、楽しい紙芝居のはじまり、はじまり〜。

会員募集中! 東京したまち紙芝居の会

紙芝居作りや演じ方の練習、実際の公演などを行います。初めての方も大歓迎です。お問い合わせは三橋とらさんホームページから

ACC 友の会入会のご案内

会員になると
お得な特典が
いっぱい!

- 公演チケットが割引で購入できます
(ACCの全ての公演チケットが原則1割引)
- 人気の公演チケットを一般販売に先立って購入できます
(ご希望の席を早めにゲット!)
- 会員だけのお得情報が届きます
(先行販売やチケットプレゼント等の情報満載の「友の会通信」)

特典

会費

口座会員1,300円/年
※年間で2枚以上のチケット購入で、年会費以上の割引になることも!
現金会員1,500円/年

口座会員だけの 便利な特典

- 電話で予約したチケットを自宅へ郵送! しかも送料無料
(口座引き落としの手続き完了後からとなります)
※窓口でチケットを買いに行く手間が省けます。忙しい方におすすめ!
- 毎年の窓口での更新手続きが不要!
※窓口に行く必要がなく、更新のし忘れもありません!

●入会条件:どなたでもご入会いただけます。●会費:年会費(口座会員1,300円/現金会員1,500円) ●会期:入会した日から、翌年同月の末日まで ●会員種別①現金会員:年会費やチケット代金を現金でお支払い②口座振替会員:年会費、チケット代金をご指定の口座より引き落とし(振替手数料は無料) ●入会方法:入会申込書に必要事項をご記入のうえ、年会費を添えてお申込みください。(受付窓口)町屋文化センター

黒豚しゃぶしゃぶ
期間限定: 7月12日まで

先付、お造り2種、揚物、茶碗蒸し、しゃぶしゃぶ(和牛霜降肉120g、野菜盛) 御飯、香の物、デザート
飲み放題付 6,000円

先付、お造り2種、揚物、茶碗蒸し、しゃぶしゃぶ(和牛霜降肉120g、野菜盛) 御飯、香の物、デザート
飲み放題付 7,000円

先付、お造り2種、揚物、茶碗蒸し、しゃぶしゃぶ(和牛霜降肉120g、野菜盛) 御飯、香の物、デザート
飲み放題付 8,000円

黒豚しゃぶしゃぶコース
先付、前菜、お造り、豚角煮、黒豚しゃぶしゃぶ(肉・野菜盛) 中華麺、御飯、香の物、デザート
5,000円(税込5,400円)

黒豚しゃぶしゃぶ
先付、黒豚しゃぶしゃぶ(肉・野菜盛) 中華麺、御飯、香の物、デザート
3,500円(税込3,780円)

歓迎迎会ご予約承り中!
※無料送迎バスをご用意いたします。※ご予約ご相談ください。

木曾路南千住店
荒川区南千住 5-6-15
電話: 03-5850-5567

グラスドリンク人数分プレゼント
●2,160円以上の料理をご注文に限りです。
●グラスドリンクを人数分プレゼントいたします。
●他券との併用はできません。
●ご飲食前にお係員にお渡しください。
●H29年4月30日まで有効
●木曾路南千住店のみの有効